

【樹木の部屋】

ニシキギ (ニシキギ科ニシキギ属 *Euonymus alatus*)

和名：ニシキギ(錦木) **別名**：ヤハズノニキキギ(矢筈錦木)、カミソリノキ

英名：winged spindle、burning bush、Spindle tree

ニシキギ目 落葉広葉樹 **原産地**：日本

花言葉：あなたの魅力を心に刻む、危険な遊び **花色**：淡黄緑



← 写真-1 ニシキギ

撮影日：2021年4月27日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん

▽ 写真-2 ニシキギの新枝と花

撮影日：2021年4月27日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 ニシキギの葉

撮影日：2021年4月27日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん

→ 写真-4 ニシキギの花

撮影日：2021年4月27日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：Mさん



← 写真-5 ニシキギの幹

撮影日：2021年4月27日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：Mさん

北海道から九州までの広い範囲に分布する落葉樹で、紅葉の美しさを「錦」に例え、「錦木」と名付けられたそうです。紅葉が見事で、スズランノキ、ニッサボクと並ぶ世界三大紅葉樹の一つとされ、庭園樹、盆栽、公園樹によく用いられています。材は細工物に使い、特に良質の版木になり、樹皮はかつて和紙を作るのに用いられたそうです。

栽培は容易で、繁殖は播種または挿し木で行い、播種は秋に採取した種子をすぐに蒔き、挿し木は枝を10～15 cmに切って挿し、乾燥させないようにビニールで覆うとよいそうです。植え付ける場合は、西日を避けた日当たりの良い場所に植えると、美しい紅葉が見られるそうです。

樹皮は灰褐色で縦に筋があり、葉は楕円形で先端が尖り、縁には細かな鋸歯があります。緑色の若い枝には浅い土色でコルク質の翼(よく)がある特徴的な枝をもつため、生け花の花材としても好まれ、芽吹きもよく刈り込みにも耐えるので、仕立てものや生け垣としても人気があるそうです。また、新葉は山菜として食べられるそうです。

花期は初夏(5～6月)で、葉腋から集散花序を出して、淡黄緑色で小さく、あまり目立たない4弁の花を1～数個つけます。果実は楕円形の蒴果で、秋に赤く熟すと果皮が割れて、中から橙赤色でほぼ球形をした、仮種皮に覆われた小さい種子が露出します。この種子はトリグリセロールという有毒成分を含み、人間が食べると腹痛、嘔吐、下痢などの症状を引き起こすそうですが、野鳥は好んで食べ、仮種皮を消化吸収したあと、種子を糞として排泄し、種子散布が行われます。

ニシキギの剪定は休眠期の落葉期が適期で、生い茂った枝や元気がない枝、重なった枝などを、枝の付け根部分から枝を取り除く「間引き剪定」を行います。この作業で、植物の内部への風通しと日当たりがよくなり、病虫害の発生予防効果もあります。ただし、落葉期の枝には花芽が付いていることもあるので要注意です。切

り落とす前に、新芽を確認しながら作業してください。新芽を切ると実が付かなくなり、真っ赤に熟した実を楽しめなくなります。

形がくずれた場合以外は、あまり剪定をせずに自然のままの姿で育てるとよいそうです。形を整えるために強剪定を行うと、花芽も切り落としてしまう危険性があります。また、生育期に剪定を行うと、切り口付近に芽吹いて、かえって込み入ってしまうので要注意です。一方、よく発芽する性質があるので、生垣の場合は強く剪定してよいそうです。

<ちょっと一言>

* スズランノキ(ツツジ科オクシデンドラム属 *Oxydendrum. Arboretum*)

別名：オクシデンドラム **英名**：Sour wood

ツツジ目 落葉広葉樹 高木。 **原産地**：北米 **花色**：白

* ニッサボク(ヌマミズキ科ヌマミズキ属 *Nyssa sinensis*)

別名：シナヌマミズキ

セリ目 落葉広葉樹 高木 **原産地**：中国 **花色**：黄緑色

*ゼノビアもスズランノキとよばれることがあり、混同されるようです。

・ ゼノビア(ツツジ科ゼノビア属 *Zenobia pulverulenta*)

和名：スズランノキ 常緑低木 **花色**：白